

令和6年度 育種改良・登記登録部会 活動報告



昭和23年から始まった豚の登記登録事業が
令和7年で77年目を迎えました。

国から承認を受け、歴史ある我が国の豚の登記登録事業と国産純粋種豚の改良事業を担う部会です。

今までも、そしてこれからも、国内で豚肉生産を行っていく上で、もととなる種豚を国内で維持・改良していく。

この、ごく基本的なことが実は非常に重要であることは、ここ数年の世界情勢でも皆さん痛感されていると思います。

部会長 中村 臣助
担当副会長 宝尺 実正

部会委員紹介

	役職	氏名	所属	TEL	FAX	
宮崎県	担当副会長	宝尺 実正	有限会社 ピッグセンター宝尺	0984-33-3438	0984-33-4004	宮崎県えびの市大明司426-3
長崎県	部会長	中村 臣助	株式会社 舞豚	0957-68-0513	0957-68-0513	長崎県島原市有明町湯江甲860
静岡県	副部会長	桑原 康	農事組合法人 富士農場サービス	0544-29-0555	0544-29-0567	静岡県富士宮市北山5247-34
東京都	委員	二階堂 聡	全農畜産サービス 株式会社	03-5245-4874	03-5245-4873	東京都江東区冬木11-17
千葉県	委員	山本 拓	豊橋飼料 株式会社 種豚センター	0475-34-2241	0475-34-2140	千葉県茂原市萱場1524
東京都	委員	木全 誠	株式会社 シムコ	03-5626-2311	03-5626-2318	東京都江東区亀戸2-35-13 新永ビル
富山県	委員	木島 敏昭	有限会社 木島農場	0765-56-8295	0765-57-0832	富山県黒部市荒俣192-1
宮崎県	委員	相馬 善弘	株式会社 ファームテック	0984-37-2123	0984-37-2705	宮崎県えびの市大字向江1005

令和6年度

子豚登記件数 10,329頭 種豚登録件数 4,429頭

家畜改良増殖目標に基づき、我が国が認める唯一の豚の登記登録機関としての協会事業を支えています。また、登記登録事業によって得られるデータは、国産純粋種豚を維持改良するために必要な重要データです。

登記登録事業とは、これらを管理し、能力向上のための遺伝的能力評価等に活用しています。残念ながらここ数年登記登録件数は少しずつ減少傾向です。我が国の『遺伝資源』である、国産純粋種豚の維持改良のためにも、件数減少を食い止めるべく部会でも重要課題として対策検討を行っています。

表2 豚の飼養頭数及び頭数の推移

年次(西暦)	飼養戸数(戸) A	指定種豚場 黒豚生産農場 系統維持施設 B	B/A
昭和55(1980)	141,300	2,795	2.0%
平成20(2008)	7,230	214	3.0%
平成30(2018)	4,470	101	2.3%
令和5(2023)	3,370	90	2.7%

農林水産省 「畜産統計」

ただし・・・

登記登録件数は、開始の年、昭和23年から我が国の豚の飼養戸数に対し、変わることのない割合を維持しています。つまり、我が国には国産純粋種豚生産基盤とその需要がしっかりと根ざしているのです。

子豚登記実施経営体 令和6年度(2024年度)(速報値)

区分	件数	割合	備考
生産者	45	41.3%	個人ブリーダー
育種会社	25	22.9%	
試験場等	30	27.5%	家畜改良センター 試験研究機関
団体	2	1.8%	都道府県協会・団体
学校	7	6.4%	教育機関
合計	109	100.0%	



令和6年度 活動報告

1. 遺伝資源である国産純粋種豚の維持改良への取り組み

- (1) 遺伝子(SNP)情報や、肉質の成分調査データを用いた国産純粋種豚の維持改良手法体制について
- (2) 国産純粋種豚の飼料利用性及び腸内細菌情報の調査研究による維持改良手法体制について
- (3) 現行の閉鎖群育種だけでなく、開放型育種手法の確立について検討
→令和7年度中に新たな開放育種による認定制度を確立する予定です。(家畜改良センター、農研機構と共同)
- (4) 四半期ごとの豚の遺伝的能力評価公表
- (5) 種豚の維持改良に関する講演会などでの事例発表、講演
- (6) 人工授精の普及に対し、問題点や課題の検討と改善対策への取り組み
→令和6年度は国内における豚精液の円滑かつ安全な発送体制について国・業者とAIセンターで改善に取り組みました!!

これらのことを育種改良・登記登録部会単独だけではなく、農水省、家畜改良センター、農研機構や都道府県の試験研究機関、学識経験者やグループと共に御教示など受けながら取り組んでいます。

令和6年度開催 種豚登録講習会

開催日	開催名	開催場所	参加人数	内容
2024/6/25	中日本地区種豚登録講習会	山梨県甲府市	25名	卓上講習
2024/7/12	鹿児島県種豚登録講習会	鹿児島県鹿児島市	33名	卓上講習
2024/8/29	北海道種豚登録講習会	北海道札幌市	18名	卓上講習
2024/9/18	東日本地区種豚登録講習会	岩手県盛岡市	22名	卓上講習
2024/12/4 ~12/5	西日本地区種豚登録講習会	宮崎県都城市	34名	卓上講習 生体審査実習

※会場となった地域の登録業務委託団体の皆様ほか、関係者の方には大変お世話になりました。



(2)種から作る喜びと感動から未来のリーダー育成へ

育種改良・登記登録部では養豚後継者育成からブリーダー後継者育成に着目し、全国の学生を対象とした種豚登録事業・種豚の育種改良について、出前授業を行っています。令和6年度は埼玉県立熊谷農業高等学校と東京都立瑞穂農芸高等学校にて開催しました。また、この出前授業受講生が現在、様々な育種の現場に就職している嬉しい便りも飛び込んできました。そのうち2名について皆様を紹介します。

種豚登録講習会について

瑞穂農芸高等学校の畜産課に在籍していました。当初は良い豚・悪い豚等の豚を見るポイントが分かっておらず、せっかく学校に豚がおり毎日見れる環境にあるのに専門的知識を用いて豚を見る事が出来ていなかったように感じます。種豚登録講習会を開催していただき、豚の専門知識を持った方に実際に豚を見ながら評価ポイントを聞けるいい機会になり、講習会の内容だけではなく豚の色々な疑問に答え教えて頂いたのを覚えています。高校では豚に詳しい方と話す機会があまりなく講習会では養豚の奥深さなども知れるいい機会になりました。講習会で豚の魅力を知り鹿児島県農業大学校で養豚を学び今のシムコに就職しました。現在はシムコに入社し10年目になり種豚舎を担当しています。日々行っている作業が受胎率等の成績に数字として表れるので、やりがいや面白さがあります。また、シムコでは自動採取機や自動水洗機など新しい機械導入することに積極的で、新しいことに挑戦できる環境にあるのでやっていると楽しいです。



株式会社シムコ
館山事業所 林 里美 様

種豚登録講習会について

私は高校生の時に養豚について学び、この業界に就職することを決めました。当時は瑞穂農芸高校畜産課に在籍しており、毎日豚の世話や勉強をしていました。その授業の一環として種豚登録の講習会を受けました。養豚協会の方が来ていただき豚の評価基準や審査の方法など、高校生でもわかりやすく解説していただいたのを覚えています。当時は実際に養豚業界にいる人と話す機会などは無く、講習会でのお話はとても興味深く面白かったです。また、それがきっかけで豚にもより良い乳器や肢蹄を残せるよう改良が進められていることを知り、種豚や育種改良というものに興味を持ち始めました。そして高校でシムコの求人を見つけ、種豚業の会社と知って興味を持ち入社を決めました。シムコに入社して今年で9年目になり、現在は大館GGPセンターで分娩舎を担当しています。GGP農場は原種豚を生産していることもあり、シムコの中でも特に育種に関りが深い業務が出来る場所です。乳器や肢蹄などの良し悪しを見極め、どの子豚を種豚として残すのかを日々意識しながら仕事をしています。今自分がこの仕事に就いているきっかけのひとつとして、高校時代の種豚登録講習会があったと思います。



株式会社 シムコ 大館GGPセンター
獅子内 運 様

令和6年度 熊谷農業高校の出前授業受講の生徒さんですが、埼玉県のランドレース審査大会に第2位ほか10位以内に多数入賞されたという嬉しいニュースもいただきました。



新たな家畜改良増殖目標が確定しました

～令和7年度からこの目標達成に向けて取り組んでいきます～

令和6年度に開催された豚の畜種別検討会に、当部会木全委員が委員として参加しました。3回の検討会を経て令和7年4月、令和17年度に向けた新たな改良目標が制定されました。

木全委員は委員会で『国内において種を維持管理していくことが食の安全保障の観点でも非常に重要な課題である。』と意見を述べました。また、『豚肉に対する国内外の多様なニーズに対応し、また特色ある我が国の豚肉生産への更なる取り組み』についても意見を述べ、今回の改訂においてこの2点、しっかりと目標にも明記されました。

家畜改良増殖目標 豚より表3(参考)肥育素豚生産用母豚の能力に関する数値(全国平均)

	1腹当たり生産頭数	育成率	年間分娩回数	1腹当たり年間離乳頭数
現在	11.8頭	90%	2.3	24.2頭
目標(令和17年度)	12.6頭	95%	2.3	27.5頭

家畜改良増殖目標 豚より表4(参考)肥育豚の能力に関する数値(全国平均)

	出荷日齢	出荷体重	飼料要求率
現在	184日	114kg	2.9
目標(令和17年度)	180日	120kg	2.8

令和7年度 育種改良・登記登録部会 活動計画

1. 国産種豚の改良

(1) 家畜改良増殖目標に示された目標の実現

家畜改良増殖目標に示された繁殖能力等の目標を実現するため、国産純粋種豚改良協議会を中心に、広域的な遺伝能力評価に基づく純粋種豚の選抜及び交配を推進する。同目標に示されたとおり、育種価情報の適切な活用方法の普及等を進める。

(2) 食味の改良

デュロック種について、我が国で求められている食味も含めた肉質の更なる改良を進める。2025年度は、現在進めている美味しさに係るデータ(脂肪酸やアミノ酸等の成分及び関係遺伝子)の蓄積をさらに進め、指標化(美味しさの定義)に向けた検討を行う。併せて、これらデータの有用性について関係者への周知を図るため、試食会の開催等を検討する。

(3) 抗病性育種

一部の県等で取組が開始されているDNA情報(マーカー)を利用した育種改良の実用化に向け、補助事業の活用等について関係機関と検討を進める。

2. 育種改良を支援する体制の強化

(1) 種豚登録講習会の開催(但し、豚熱等の発生により開催時期・場所の特定は困難であるが、要望に応じて内容を精査のうえ開催する。)

(2) 家畜人工授精師講習会の開催(需要等の調査と開催に向けた検討)

(3) 種畜検査の簡素化(精液証明書の統一、検査項目等について検討)

(4) 高校生への出前授業の効果及び授業内容を検証(国内養豚産業の理解醸成とブリーダーへの就業促進)

(3). 国産純粋種豚改良協議会 会員として・・・

『国産純粋種豚改良協議会』

に会員及び事務局として運営に参加しています。

我が国の国産純粋種豚改良のスピードアップと多様な豚肉生産のニーズにこたえるための国産純粋種豚維持改良に、官民一体オールジャパンで取り組む国産純粋種豚改良協議会に参加。

事務局として、協議会活動の啓蒙、学識経験者による講義・研修会、種豚登録講習会の開催等の担当対応しています。

『国産純粋種豚改良協議会』令和7年度で設立10周年を迎えます!!

平成28年3月31日設立。現在、民間生産者21、行政機関(都道府県試験場)14、試験研究機関・関係団体7、学識経験者4名で構成。公式HP:<https://buta-kairyo.jp/>

今年度は・・・

協議会で認定を行っている国産純粋種豚認定銘柄豚(現在14銘柄)を中心とした協議会会員の種豚を使って生産された豚肉の消費者キャンペーンも実施予定です!!



国産純粋種豚改良協議会 令和6年度 通常総会
12月18日(水) 出席37名 委任状出席9名 新潟県新潟市にて開催



①国産純粋種豚改良協議会 功労賞表彰

氏名	所属
星 正美 氏	有限会社星種豚場
山田 芳男 氏	株式会社山田B. F
五十嵐 清彦 氏	五十嵐種豚場
吉沢 重実 氏	吉沢種豚場
小磯 孝 氏	(一社)日本養豚協会



②そこが親父のこだわりです

～先輩から技術を盗め、失敗を学べ～パネルディスカッション

国産純粋種豚改良協議会 青年倶楽部が主催して、先輩リーダー・育種改良に携わってきた方々のパネルディスカッションが開催されました。

(資料については最終ページに添付しました。是非ご覧ください!!)

諸先輩方の貴重な経験談から、私達次世代の育種改良チームが何に取り組み、何を改善し、何を目指すべきか?さらに後輩に何を伝えていくべきなのか??非常に濃密なパネルディスカッションとなりました。



(4)補助事業の取り組み

①令和6年度 養豚経営安定対策補完事業(独立行政法人 農畜産業振興機構)

- ・集团的肉豚能力向上支援事業 日本養豚協会が発行する血統証明書を持つ純粋種豚生体、精液、一代雑種雌豚導入補助事業

【令和6年度実績】

純粋種生体導入 187頭(うち輸入豚38頭) 精液 314ドーズ 一代雑種雌豚 606頭
(一代雑種雌豚は1経営体30頭までが補助対象)

- ・飼養管理技術向上支援
種豚登録講習会、種豚改良技術など生産性向上と飼養管理技術向上を目的とした研修・講習・意見交換会など

②令和6年度 畜産生産力・生産体制強化対策事業(農林水産省)

- ・遺伝子検査の推進
令和5年度に引き続き、モデル生産者によるSNPsや関連遺伝子情報を活用した国産純粋種豚の繁殖産肉能力の改良手法を研究。肉質については『美味しさの指標』についても研究調査に取り組み、官能試験も実施。宮城大学客員教授・東北大学名誉教授 鈴木啓一先生に御指導賜りました。



③令和6年度 畜産生産力・生産体制強化対策事業(農林水産省)

- ・産肉能力の改良推進
我が国の特色ある豚肉生産のための産肉能力をさらに改良推進するためのデータ収集手法の見直し、データ収集のための機器導入などを行いました。
- ・種豚改良データ分析のためのプログラム開発
遺伝的能力評価精度向上のため、有効なデータをより多く収集・分析可能なプログラムを作成。

④令和6年度 豚の飼料利用性育種推進事業(令和5年度より3か年事業) (公益財団法人 全国競馬・畜産振興会)

- ・飼料価格が高騰を続ける状況の中、国産種豚の飼料利用性改良は喫緊の課題ですが、国内における飼料利用性に関するデータは殆ど収集されていません。本事業では、飼料利用性育種の推進を実現するために国産種豚の飼料利用性に関するデータを収集して、その遺伝的特性を調査するとともに、飼料利用性育種を効率化するために最新の知見を取り入れた育種手法の国産種豚造成への適用可能性について調査することを目的としています。



(5) 種豚生産者連絡会～枠を超えて結束し、我が国の種豚生産体制を守る～

中村部会長からJPPA会員の皆様へ

育種改良・登記登録部会 部会長の中村臣助です。現在、長崎県島原市で種豚生産のほか独自の豚肉生産と直営レストランの展開を行っています。ちなみに私事で恐縮ですが、我が家は昭和6年から代々島原市で種豚生産を行ってきました。私で四代目になります。我が国に四代続くブリーダーはいないのではないかと自負しています。また、二代目である祖父の岩七は種豚登録協会理事、三代目である父の一彌は日本養豚協会理事を務めさせていただきました。四代目の私は長崎県養豚協会の会長を務めさせていただき、令和6年度年総会後より育種改良・登記登録部会の部会長という大役を仰せつかり、怒涛の1年間があったという間に過ぎ去ってしまいました。

昨年度は特に、人工授精用精液輸送問題への取り組み、家畜改良増殖目標の見直し検討に対する部会としての意見取りまとめなど、日本の養豚を根元から支える事業に携わらせていただき私自身も日々勉強させていただいています。

さて、昨今、様々な事由により海外から種豚や精液の導入が困難になりつつある中で、我が国において高能力かつ高度に衛生管理された遺伝資源を確保し、種豚の育種改良体制を維持していくことが喫緊の最重要な課題となっています。育種改良の原点、基本である登記登録事業の円滑な実施を進めていくために、会員皆さま方の更なるご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。先程紹介しました、新たな家畜改良増殖目標達成への計画的な取り組みはもちろん、育種改良・登記登録部会部会員一丸となり頑張っております!!



令和7年(2025年)6月23日
中村臣助

二代目岩七、三代目一彌と私の母、弟の守孝が日本の養豚の表紙になった号です。



全ての品種の正式名称、分かりますか???

あなたはどの登録6品種がお気に入り??



よい豚の もとをたどれば よい種豚

諸先輩方のこだわりを是非ご一読ください ~国産純粋種豚改良協議会~

7~8年前に同業の近い世代の4名と秘密結社「豚変態の会」を立ち上げ、種豚生産の神髄を後世に残すべく、先輩ブリーダーのこだわりや経験談を文字にしようと企画するもうまくいかず。

今回ひょんなことから国純会で実現し、関係者の皆様に本当に感謝申し上げます。この間に鬼籍に入られた方もいらっしゃいますが、本年、農業基本法の改正にともない、改めて「食料安保の観点から、国内で遺伝資源を確保し、純粋種豚の改良体制を維持していくことが重要」という認識を示されました。

今回の企画から、先輩方のさまざまなこだわりや豊富な経験に基づく最終奥義ともいえるものを、国純会青年倶楽部に代表される若手に伝えていくことは非常に重要で、まさに国益に叶うものであります。

本日は活発なご議論をお願いいたします。

**そこが親父のこだわりです
~先輩から技術を盗め、失敗を学べ~**

令和6年度 国産純粋種豚改良協議会総会後の記念行事にてパネルディスカッションを開催しました。

こちらのテキストは国産純粋種豚改良協議会 ホームページ<https://buta-kairyo.jp/report.html> 開・レポ等コーナーよりダウンロードできます。是非、ご一読ください!!



国産純粋種豚改良協議会
青年倶楽部リーダー
木全 誠
(株式会社 シムコ)

出演者(パネラー)

鈴木啓一先生・山田芳男 氏
五十嵐清彦 氏・木島敏昭 氏
新 晋二 氏・横室達弥 氏
小磯孝 氏